

## 投資事業評価調書（継続：再評価〔第2回〕）

部課室名	土木局港湾課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 芝原 平 (建設係長 坪田 勝幸)		内線	4440 (4450)
事業種目	港湾事業		事業採択年度	H7	現計画	再評価時点
事業名	家島港		着工年度	H7	総事業費	約36億円
	改修(離島・地方)事業		再評価年度	H12	内用地補償費	0億円
事業区間	家島地区			完成予定年度	H19	H17
所在地	兵庫県飾磨郡家島町真浦			進捗率	92%	46%
				残事業費	約3億円	
事業の目的				事業内容		
係留水域が不足しているため、防波堤・係留施設の整備を行い、無秩序に係留されている石材運搬船を整理する。これにより、島民の本土への唯一の足である離島航路の安全性・定時性を確保する。				岸壁(-5.5m) L= 230.0(300.0)m 泊地(-5.5m) A= ---- (5,000)m <sup>2</sup> 防波堤(東) L= 300.0m 〔負担割合 国:8/10,6/10,県:2/10,4/10〕		
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期航路の船舶乗降人員の推移 H8 243千人/年 H15 560千人/年</li> <li>観光入込客数の推移 H8 78千人/年 H15 120千人/年</li> <li>家島町は、住民の参画と協働により港湾・漁港の新たな方向性及び将来像を示した「港湾・漁港マスタープラン」を平成16年に策定した。このプランに基づき一部計画を見直した。</li> </ul>					
進捗状況	岸壁(-5.5m) L= 137.0m 整備済 : 残事業 L= 93.0m 防波堤(東) L= 300.0m H16完了済 H7に事業着手。事業進捗を図ってきたが船舶係留配置計画について、地元との協議に時間要したため、完成年度がH19となる。					
評価視点		評価結果の説明				
(1)必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>家島を母港とする約180隻の石材運搬船の内、常時約100隻が家島港を基地港として利用している。</li> <li>静穏な海面及び係留施設の不足により、現在港内に約60隻、港外には約40隻が定期旅客船航路付近に無秩序に停泊しているため、防波堤、岸壁の整備により、静穏な海面及び安全な船舶の航路を確保する。</li> </ul>					
(2)有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>「つくる」から「つかう」の観点から、地元の協力、理解により漁港施設と連携し既存施設を利用した再配置計画を検討、一部岸壁延長の見直しを行い、効率的な整備を行う。</li> </ul>					
・効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>費用便益比 B/C=3.2</li> <li>「マスタープラン」と整合調整を図った計画変更であり、地元協力体制等事業執行環境が整っている。</li> </ul>					
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> <li>港内水質悪化防止及び生態活動に配慮した海水交換機能を有する防波堤構造とするなど環境に配慮しながら施行を進めており、今後も環境に与える影響は少ない。</li> <li>係留施設についても埋立を行わない計画としており、生態環境への影響は少ない。</li> </ul>					
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> <li>本土との交流を海上交通に頼る家島では、海上輸送の安全、安心を確保し、今後進める家島ターミナル改修事業と併せ、より一層の効果を発揮させるため、当事業を引き続き整備する必要がある。</li> </ul>					
再々 評価 の果	継続	左 の 理由	事業の必要性は、事業採択時と変わっておらず、地域住民からも早期完成を望む声強いことから、継続して事業実施する必要がある。			